□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

7—① 社会科のつまずき・ここが問題だ

「手・品の開発と繰り返し」

熊本市立出水南小学校教諭　村上浩一

□□□□□□□□□□□

□ □/、県（県庁所在地）名は?

□何といっても、知識理解力が充実していないと、他の資料活用力や思考判断力もうまく回っていかないだろう。□□□□□□

□その知識理解面で最大のネックは、子どもたちが県名・県庁所在地名等々をしっかり把握していないことである。教師サイドも、そのうち覚えるだろうと、学力把握をしなくなる。かつて、私がそうだった。ここ熊本県の場合だと、九州地方の各県はよく覚えているのだが、関東圏になるとさっぱりということが多かった。やはり、生活範囲の問題だろう。かねてより、県庁所在地名の紙製フラッシュカードやパズル、度重なるテスト等々で知識を高めようと努力してきた。私の場合は、最近、県庁所在地名の電子フラッシュカードも作成してみた。

http://www.kyou-zai.com/room/61.htm

いつの時代も、子どもたちに力をつけるためには、□□□□□□□□□□□□□□

手を替え、品を替え

の方法論でコツコツ繰り返しやっていくしかないと考えている。例えば、九九を覚えさせるのにCDがあるように、県庁所在地名を覚えるのにもCDがある。森高千里氏の「ロックンロール県庁所在地」（ワーナーミュージックジャパン「森高千里ペーパーランド」内）である。もちろん、新しく地名変更があった分（埼玉県）には対応していないが。その一方で、新聞記事の利用も進めたい。47都道府県の記事を収集させるのである。ある県の記事を見つけたら、その記事をスクラップし、白地図でその県を塗りつぶしていくのである。誰が一番早く到達できるか、競わせるのも面白いだろう。名付けて、記事・県名ラリーである。

□□□/、どこを学習しているのか?□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□歴史的分野での問題は、ずばりここだ。

今、どこ（どの時代）を学習しているのか。

ということである。例えば、明治時代もたかが45年間だが、細かいことを学んでいくと随分と長いものである。どこを学習しているのか、維新前夜なのか、明治前半なのか、明治後半なのか、等々である。□□

□私は、勤務校の副読本作成の際に、副読本上部（ヘッダー部分）に、「このページではここの部分を学習している」ということを知らせるため、次の写真のように「帯」を掲示していった。6年社会科のノート指導においても、このようなフォーマットを作成・印刷しておいて、子どもたちに記入させていき、各ページにはらせていくという指導をしてはどうだろうか。きっと、年表が身近になり、時代の「迷子」にはなる

ことはないだろう。□□□□□□□□□□

□□□ミ、政治に無関心？□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□公民的分野では、日本国憲法や選挙等々を学んでいくことになるが、どうしても自分の日常生活と遠いということもあって、学習に深まりがないということがある。もし、これらの学習を「お金」で置き換えてみると、どうなるだろうか。というのは、「社会」との接点の1つとして、「お金」があるからである。確かに、税金の学習では、身近な間接税あたりから入ったりするだろう。ここでの提案は、そればかりでなく、全ての学習をできるだけ「お金」でやっていったら、もっと目が輝いてくるのではないかということである。例をあげてみる。

　日本国憲法の学習で「基本的人権」を学習する。その時、「教育を受ける権利」を取り上げ、「義務教育はこれを無償とする」という26条から小学校6年間の教科書代＝約2万円が無償化されていることを学習していくのである。あるいは、福祉の学習で、○○センター設立という箇所があったら、単に国民の願いで終わるのでなく、設立費用□□円はどこから来たのかを問うていく。議会を通して、自治体（国家）の予算配分で執行され、その予算の大本は税金からというのを学習していくのである。又、単に平和の大切さを唱えるだけでなく、具体的にイラク戦争での戦費と死亡者数を対比させたりして、平和憲法の大切さを訴えることも大切であろう。□□□□□□□□□□

　「お金」は、子どもたちの生活の一部でもあり、「お金」という窓から社会を見ていけば、学習意欲や関心も違ったものになってくるだろう。□□□□□□□□□□□□□

□□□四、転移する力□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□社会科で大切な力は、「学習の転移」力だと考える。「他にも調べておいてね」と指示する教師も問題だが、こうやって調べてくる子はほんの2、3人というのが実態ではなかろうか。授業での学習と類似したことや発展的な課題に対して、授業での学習を生かして調べてくる力をつけるのには、一朝一夕にはいかない。そこには、国語科の文章力、辞書や事典を引く力、興味・関心の有無、事象（課題）にアクセスする方法論の有無、学級経営（担任と児童の関係）等々の複合的なものが必要とされる。これは、1年間を通じて、全ての教科で培っていかねばならないことだろう。特に、社会科においては、インターネットで調べたら、その時間内に他のものも調べさせるという類似のことをさせてみて、できたら大いに褒めて、成功体験を身につけさせるというようなことも重要になってくる。

　以上、つまずき解決には、いつの世でも、手（やり方）・品（教材）を変えて、繰り返し繰り返し指導していく必要があるのだと考える昨今である。□□□□□□□□□□